

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成24年10月18日(2012.10.18)

【公開番号】特開2011-95402(P2011-95402A)

【公開日】平成23年5月12日(2011.5.12)

【年通号数】公開・登録公報2011-019

【出願番号】特願2009-247881(P2009-247881)

【国際特許分類】

G 0 9 G	3/34	(2006.01)
G 0 3 B	21/00	(2006.01)
G 0 3 B	21/14	(2006.01)
G 0 9 G	3/20	(2006.01)
G 0 2 B	26/00	(2006.01)
H 0 4 N	9/31	(2006.01)

【F I】

G 0 9 G	3/34	D
G 0 3 B	21/00	D
G 0 3 B	21/14	Z
G 0 9 G	3/20	6 8 0 C
G 0 9 G	3/34	J
G 0 9 G	3/20	6 4 2 J
G 0 9 G	3/20	6 4 1 E
G 0 9 G	3/20	6 5 0 M
G 0 9 G	3/20	6 1 1 E
G 0 9 G	3/20	6 1 2 U
G 0 2 B	26/00	
H 0 4 N	9/31	Z

【手続補正書】

【提出日】平成24年9月4日(2012.9.4)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

投写型表示装置において、

光源からの白色光を時分割で複数の色の光に分離するカラー ホイールと、

前記カラー ホイールにより分離された各色の光を変調する表示素子と、

外部から入力された映像信号を処理して前記表示素子の各画素に所定の変調動作を行わせるための制御信号を生成する信号処理部と、

前記信号処理部からの前記制御信号に従って前記表示素子を駆動する駆動部と、を備え、

前記カラー ホイールは、前記光源からの白色光をそのまま透過するセグメントを含み、

前記信号処理部は、入力された映像信号により生成される映像の彩度に基づいて、前記表示素子の各画素のうち白成分を表示する画素における輝度が低減するよう前記映像信号を処理して前記制御信号を生成する、

ことを特徴とする投写型表示装置。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の投写型表示装置において、
前記信号処理部は、前記彩度が予め設定された閾値を超える場合に前記白成分を表示する画素に対する R G B 信号を減衰させる、
ことを特徴とする投写型表示装置。

【請求項 3】

請求項 1 または 2 に記載の投写型表示装置において、
前記信号処理部は、1 フレーム単位で前記彩度を判定して当該フレームにおける前記白成分を表示する画素に対する R G B 信号を減衰させる、
ことを特徴とする投写型表示装置。

【請求項 4】

請求項 3 に記載の投写型表示装置において、
前記信号処理部は、前記画素毎に彩度を求め、全画素の彩度の平均または合計が予め設定された閾値を超える場合に前記白成分を表示する画素に対する R G B 信号を減衰させる、
ことを特徴とする投写型表示装置。

【請求項 5】

請求項 1 ないし 4 の何れか一項に記載の投写型表示装置において、
前記信号処理部は、入力された映像信号により生成される映像の彩度に基づいて、前記表示素子の各画素のうち白成分を表示する画素における輝度が増加するよう前記映像信号を処理して前記制御信号を生成する、
ことを特徴とする投写型表示装置。

【請求項 6】

請求項 5 に記載の投写型表示装置において、
前記信号処理部は、前記彩度が予め設定された閾値より低い場合に前記白成分を表示する画素に対する R G B 信号を增幅させる、
ことを特徴とする投写型表示装置。

【請求項 7】

請求項 4 または 6 に記載の投写型表示装置において、
白成分を表示する画素に対する R G B 信号を減衰または增幅させる前記信号処理部において、白成分に相当する範囲の境界の閾値が任意に調整される、
ことを特徴とする投写型表示装置。